

解説ハリストス教信仰 (V)

木村 真之介

2024.02.08 作成

概要

用語集



聖大致命者凱旋者ゲオルギイ

目次

0.1	一般的表記との対照表	3
0.2	用語	12
0.3	もっと知りたい人のために	26
0.4	あとがき	28

0.1 一般的表記との対照表

必ずしも一対一に対応しているわけではなく凡そ同じ意味で使われる用語を当てはめています。人名、地名、固有名詞に関しては正教会訳聖書の表記を可能な限り優先させています。またパウエルやパワエルのように同じ名前に複数の正教會的な表記がある場合、両方載せる場合と片方だけの場合があります。アレキセイ、アレクセイ、アレクシウスのような違いの少ない名詞は省いている場合もあります。

対照表

日本正教会訳	一般的表記・意味
「首領、権柄、主制」これらは天使等の名	「支配、権威、権力、権勢」(エペソ 1:21)
「神 [°] 父」「神父」(しんぷ) 司祭のこと	「神父」(スピリチュアル・ファーザー)
「成聖」	「聖別」「祝別」などに似ている
「聖神 [°] 」「聖神」	「聖霊」
「其れ」(それ)	話題にしたばかりの事柄を指す語の「それ」
「夫れ」(それ)	文の始めで新たに説き起こすための語「そもそも」
アアロン	アロン
アウディヤ	オバデヤ
アウラアム	アブラハム
アウワクム	ハバクク
アゲイ	ハガイ

日本正教会訳	一般的表記・意味
アシヤ	アジア
アナフェマ	アナテマ・破門・呪われよ
アフアナシイ	アサナシウス
アマリク	アマレク
アミン	アーメン
アラウィヤ	アラビア
アライ	アリウス
アリマフェヤ	アリマタヤ
アルフェイ	アルパヨ
アレキサンドル	アレクサンドル
アウェリ	アベル
アンドレイ	アンデレ
アンナ	ハンナ
イアコフ	ヤコブ
イイスス	イエス/ヨシュア
イイスス・ナフィン	ヌンの子ヨシュア
イウダ	ユダ
イウヂヒ	ユディト
イエゼキイリ	エゼキエル
イエッセイ	エッサイ
イエリホン	エリコ
イエルサリム	エルサレム
イエレミヤ	エレミヤ
イェンマヌイル	インマヌエル
イオアキム	ヨアキム

日本正教会訳	一般的表記・意味
イオアン	ヨハネ
イオイル	ヨエル
イオシフ	ヨセフ
イオナ	ヨナ
イオフ	ヨブ
イオルダン	ヨルダン
イサアク	イサク
イスカリオト	イスカリオテ
イドゥメヤ	イドマヤ
イリーナ、イリナ	アイリーン [英]
イリネイ	エイレナイオス
イリヤ	エリヤ
イロド	ヘロデ
エウレイ	ヘブライ
エカテリーナ	カタリナ
エギペト	エジプト
エズドラ	エズラ
エスフィル	エステル
エデム	エデン
エネルギーイ	エネルギー
エノフ	エノク
エフレム	エフライム
エリサウェタ	エリサベツ
エリセイ	エリシャ
エルモン	ヘルモン

日本正教会訳	一般的表記・意味
エレナ	ヘレナ
エワ	エバ
オイコノミヤ	神の側からの配剂的な力
オサンナ	ホサナ
オシヤ	ホセア
オリゲン	オリゲネス
カイアファ	カヤパ
ガウリイル	ガブリエル
カナニト	熱心党
カペルナウム	カペナウム
ガリレヤ	ガリラヤ
ギエジイ	ゲハジ
キプル	キプロス
キリール	キュリロス
キリネヤ	クレネ
グリゴリイ	グレゴリオス
クリト	クレタ
クリメント	クレメンズ
ゲエンナ	地獄
ゲオルギイ	ゲオルギオス、ジョージ
ケサリ	カエサル
ケサリヤ	カイザリヤ
ゲフシマニヤ	ゲッセマネ
ゲンニサレト	キンネレテ
ゴリアフ	ゴリアテ

日本正教会訳	一般的表記・意味
コリンフ	コリント
ゴルゴファ	ゴルゴタ
コンスタンティノポリ	コンスタンティノポリス、コンスタンティノーブル
ザクヘイ	ザアカイ
サタナ	サタン
サッドウケイ	サドカイ
サツラ	サラ
ザハリヤ	ザカリヤ
サムイル	サムエル
サロミヤ	サロメ
サワオフ	万軍
サンプソン	サムソン
シラフ	シラ
ステファン	ステパノ
スポタ	シャバット
ゼウエダイ	ゼベダイ
セラフィム	セラピム
ソフォニヤ	ゼパニヤ
ダニイル	ダニエル
ダマスク	ダマスカス
ダウィド、ダヴィド	ダビデ
ティト	テトス
ティモフィイ	テモテ
ティル	ツロ

日本正教会訳	一般的表記・意味
ティウェリアダ	テベリヤ
ナウム	ナホム
ナザレト	ナザレ
ナファナイル	ナタナエル
ネストリイ	ネストリウス
ハデス	黄泉
ハナアン	カナン
パムフィリヤ	パンフリヤ
ハリスティアニン (男性形単数)	クリスチャン、キリスト者
ハリスティナ	クリスティーナ
ハリストス	キリスト
ハルキドン	カルケドン
ハルデヤ	カルデヤ
バルフィヤ	パルテア
パウエル、パウエル	パウロ
ファデイ	タダイ
ファラオン	パロ、ファラオ
ファリセイ	ファリサイ
ファウォル	タボル
フィリスティヤ	ペリシテ
フィリップ	ピリポ
フィリモン	フィレモン
フェオドル	テオドロス
フェサロニカ	テサロニケ
フォマ	トマス

日本正教会訳	一般的表記・意味
フリギヤ	フルギヤ
ペトル	ペテロ
ヘルウィム	ケルビム
ポリカルプ	ポリカルポス
マカウェイ	マカバイ
マキシム	マクシモス
マグダリナ	マグダラ
マトフェイ	マタイ
マナッシャ	マナセ
マラヒヤ	マラキ
マリヤ	マリア
マルファ	マルタ
マンナ	マナ
ミディヤ	メジヤ
ミハイル	ミカエル
ミヘイ	ミカ
メルヒセデク	メルキゼデク
ラアフ	ラハブ
ラザリ	ラザロ
ラヒリ	ラケル
リヤ	レア
リウィヤ	リビア
リワン	レバノン
ルフィ	ルツ
ルウィム	ルベン

日本正教会訳	一般的表記・意味
レワイト	レビ
レウェカ	リベカ
ロマ	ローマ
ロマン	ローマノス
ウィファニヤ	ベタニヤ
ウィフェズダ	ベテスタ
ウィフサイダ	ベツサイダ
ウェエルゼウル	ベルゼブル
ウェニヤミン	ベニヤミン
ウェフレエム	ベツレヘム
ウェリアル	ベリアル
ウォアネルゲス	ボアネルゲ
ウォラズ	ボアズ
ワシリイ	バシレイオス
ワラウワ	バラバ
ワルク	バルク
ワルフ	バルク
ワルフォロメイ	バルトロマイ
ワルワラ	バルバラ
ワフィロン	バビロン
永眠	帰天
機密 (ミステリオン)	秘跡 (サクラメント)
機密制定の晩餐	最後の晩餐
啓蒙者	洗礼予定者
主教	司教

日本正教会訳	一般的表記・意味
真福九端	真福八端
神 ^o ([ス] ドウッフ)	スピリット、[希] プネウマ
神使 (しんし)	天使
神成 (テオシス)	神化
神品 (主教、司祭、輔祭)	聖職者 (司教・司祭・助祭)
生神女 (テオトコス) マリヤ	聖母マリア
聖詠	詩篇
聖三者	三位一体の神
聖体礼儀 (リトルギヤ)	ミサ・聖餐式
致命	殉教
痛悔機密・痛悔	ゆるしの秘跡・告解
童貞女・童女	処女・おとめ
輔祭 (ほさい)	助祭
奉神礼	典礼
宝座	祭壇
僕 (ぼく)、婢 (ひ)	僕 (しもべ)、婢女 (はしため)
領聖	聖体拝領
霊 (たましい)	たましい
窘逐 (きんちく)	迫害
藉身	受肉

[ス] 教会スラブ語由来 [希] エルリン (ギリシア) 語由来

0.2 用語

いくつかの用語についての説明です。かなりの部分は「正教会の手引」「正教会用語集」を参照しました。

0.2.1 カノン

カノンには教会法、正典のリストという意味などがある。

「カノンの教会」などという場合は使徒性、教理的、教会法的観点から合法的な教会であることを意味する。

0.2.2 機密

^{きみつ}機密とはギリシア語ではミステリオン、西方ではサクラメントや秘跡と呼ばれる。神の働きは人には見えないかたちで私達に介入される。つまり人には知り得ないことから機密と呼ばれる。

特別の奉神礼をいう。→ 七件機密。洗礼、傅膏、聖体、痛悔、婚配、聖傅、神品。

機密制定の晚餐

一般に最後の晚餐と言われるがイオアン伝の記述から解釈すると最後ではない。

聖体機密はハリストスご自身によって制定された機密。聖大木曜日

0.2.3 教会

アウトケファリ

アフトケファリア autocephaly 完全独立教会

アウトノモス

アフトノミア autonomous 自治教会

教区

diocese 主教によって監督される地区。

0.2.4 祈りで用いられる言葉の意味

アリルイヤ

他教派・一般では、アレルヤ、ハレルヤ
神を讃めたたえよの意。

オサンナ

他教派・一般では「ホサナ」
どうか救ってくださいの意。

しょうしんじょ
生神女

神を産んだ者を意味するギリシア語のテオトコスのこと。

しん
神[°]

ドゥッフ [ス]、 Pneuma [希]、スピリット [英]
一般に「神の霊」という時には、この「神[°]」を用いる。
呼吸、吹く息の意味がある。
この文書ではマル「°」を用いている。

たましい
靈

人間の「たましい」について用いる。

「我が靈や主を讃めあげよ」

「レイ」ではなく「タマシヒ」とよむケースがとても多い。

サワオフ

「万軍の」

スポタ

シャバット [エウレイ語]

安息日、土曜日。

ゆうき
勇毅

mighty、[希] イスヒロス

力、強さ、大きな能力。

右

right

右には正しいという意味が含まれる。

「爾の右の手の植え付けし者をかためたまへ」

0.2.5 祭服

奉神礼を行う神品および堂役が身につける衣服。^{*1}

0.2.6 神学的な用語

シネルギイ

シネルギア、共同、協働、共働

^{*1} 着る際は祭服を上下逆さまにしないなどの注意が必要。

救いは人と神の共働によって成立するという意味で用いられる。

テオシス

神成、神化

人が神と同一になる

テオトコス

しょうしんじょ
生神女

神を生んだ者

ペラギウス (主義)

Pelagius、pelagianism

善業を行い高德を積むことで救済され得るという異端。

ホモウシオス

同一本質、同一実体など至聖三者の同一性を表現する。

位格

ヒポスタシス

しせいさんしゃ

至聖三者、三位一体の神の性質について、三者の各自独立した一面を現している。一種の仮面ペルソナのことだが、ペルソナという表現には注意が必要である。一つの神が三つの仮面を役割に応じて付け替えているに過ぎないという異端があるため。

私審判

永眠後すぐに各自が受ける裁き、審判。ルカ伝 23:42-43

最後の審判

世の終わりに全ての生者と死者を審判する。最終の審判。

単性論

^{かみこ}神子の性質が神であることは認めつつ、人と神の性質は一つであるとした。

仮現論

神子は実際に実体的な存在でして現れたのではなく仮の姿を現していたに過ぎないという異端。

アポリナリオス

^{かみこ}神子は肉体において人、霊において神であるという異端。

0.2.7 人を表す用語

啓蒙者

洗礼予定者、カテキメン catechumen

正確には洗礼を受けることが決まっている人で啓蒙者をつくる儀式を得た者*2

敬称

「聖下」「座下」「神父」「輔祭」

[例] 総主教○○聖下、府主教○○座下、主教○○座下、司祭○○神父、○○輔祭のように用いる。

あるいは○○総主教聖下などともいう

*2 求道者の意味で使われることが散見される

「アチエツ」[露](神父)

神品

主教品、司祭品、輔祭品をあらわす聖職者のこと。
それぞれローマ・カトリック教会の司教、司祭、助祭に相当。

主教

主教品、司教、ビショップ、エписコプ
聖使徒の後継者、教会の長。
牧会、教導、奉神礼を司る。

輔祭

輔祭品、ディアコン
執事の意味だが、奉神礼において主教および司祭^{たす}を輔ける役割。

司祭

神父、[英]priest プリースト
主教の名代として各種奉事を執行する役割。

教衆

神品以外の奉神礼における奉仕者。誦経者、副輔祭、聖歌指揮者など。

0.2.8 聖書

文字で書かれたアイコン
神の言葉が書かれた書物

七十人訳

LXX、セプトゥアギンタ

紀元前 3 世紀頃、^{ヘブライ}エウレイ語から^{ギリシア}エルリン語に翻訳された旧約聖書。

人の子

未だハリストスが神の子であることが隠されていた時だから人の子と称した。完全な神の子が生神女マリヤという人から生まれ完全に人となったので人の子。^{*3}

0.2.9 聖人

亜使徒

使徒と等しく同座なる者、Holy Equal-to-the-Apostles

聖使徒と同じく宣教に力を尽くした聖人の称号「亜使徒日本の大主教聖ニコライ」など。

ようきょうしゃ 佯狂者

聖痴愚、聖愚者、ユロージヴィ

神ハリストスのために狂った人をよそおう聖人の称号

致命者

殉教者

生命に到った聖人、聖致命者、聖致命女、神品致命者などの称号がある。

^{*3} ダニエル 7:13-14 など

奇蹟者

wonderworker

奇蹟を行った聖人。

塔登者

stylites

塔に登ってその上で何年も過ごす行をする聖人。塔登者聖シメオンが知られる。

こくしょうしや
克肖者

Venerable

神に似た者となり肖を回復した聖人。

列聖

聖人の列に加えられること。

聖使徒

apostle、evangelist 宣教に遣わされた聖人、ハリストスの弟子。

福音者

福音書記者のこと、聖人。

表信者

信仰のために苦難を受けた者、聖人。

生神女

テオトコス、theotokos

神の母マリヤ^{*4}

聖人の中の聖人

ぜんく
前驅

洗礼者

前驅授洗イオアンのこと

聖師父

教父

優れた神学的偉業を成し遂げた聖人。

聖使徒師父

ハリストスの孫弟子。

0.2.10 イコン 聖像

色彩で書かれた聖書、天国の窓

ハリストスや生神女、聖人達、聖書の場面などを描いた絵、木の板に描かれることが多い。

icon アイコンの語源

0.2.11 聖堂

けいもうじょ
啓蒙所

聖堂前室にあたる、西側出入口から聖所に到るまでの区別された領域。啓蒙者が立つべきところ。^{*5}

^{*4} 一般には聖母マリアのことだが聖なる母はマリア 1 人ではないため区別する

^{*5} ただしこの規則は千年前に廃止された。廃止はされたが例えばニコライ堂のような観光客の多い大きめの聖堂では管理のために啓蒙所という区画を設定して未信徒が聖堂の奥

せいじょ 聖所

信者が立つところ、啓蒙所と至聖所の間の中央部分。

しせいじょ 至聖所

奉神礼の中心。神品および堂役が神に奉仕する場所、*6聖所とはイコノスタスで区切られ、中央に宝座、北側に奉献台を備える。

イコノスタス

イコノスタシス、聖障

聖所と至聖所を区分する壁状のついで、多数のイコンがはめ込まれており、その配置には規則がある。中央に天門、北側に北門、南側に南門という扉がある。

0.2.12 聖品

アルトス

復活祭用の特別のパン、光明週間の間に王門の横に安置する。*7

こひつじ 羔

聖体礼儀においてハリストスの体となるパン。

に迷い込み事故を起こす危険を予防している。また、「啓蒙者出でよ」の掛け声で聖堂から退出するように指導されることは現在でもあるので各自の指導者の指示に従うのがよい。

*6 許可された男子のみが入る。

*7 フォマ主日に切り分けて皆に配る、病気の時に食べると良いとされる。冷凍庫で保存すれば長持ちする。

聖体

ハリストスの体となったパンとぶどう酒。

予備聖体

聖大木曜日に用意される保管用の聖体。一年毎に新しくする。病者領聖などに用いる。

アンティドル

口すすぎの時と聖体の代わりに食べるパン。聖体ではない。聖体になる前のパンの切れ端を切り分けたもの。

0.2.13 衣類

リヤサ

修道士、神品、教役者などが着る上に着る服。^{*8}

ポドリヤスニク

修道士、神品、教役者などがリヤサの下に着る服。^{*9}

0.2.14 道具や設備

アナロイ

しょうけいだい
誦経台

読むための台、聖福音経や十字架、イコンなどを安置する際にも使う。

^{*8} 背広のジャケットに相当すると思えばよい。

^{*9} 背広のワイシャツに相当すると思えばよい。

チョトキ

[希] コンボスキイニ κομποσκοίνι

紐を数珠状に編んだ物。祈禱を怠り無く実行するための補助。

ヘシカズム

0.2.15 奉神礼

聖体礼儀

[希] シア・リトルギア Θεία Λειτουργία, [英]divine liturgy, [露]Боже-
ственная литургия

聖体機密に関する奉神礼。^{*10}

アナフォラ

聖体礼儀中の「門、門、謹みて聴くべし」から「常にさいわい」までの部分。

時課

一日を八分割して時間を区切り祈るための仕組み。晩課、早課、一時課など。

早課、一時課、三時課、六時課、九時課、晩課、晩堂課、夜半課。

ろぎ
爐儀

宝座、イコン、パニヒダ台、神品、衆人に向けて香炉を振ること。

^{*10} ミサとは構造が異なる。現代のローマ・カトリック教会で捧げられているミサは聖体礼儀と共通部分も多いがより簡略化したもの。

モレーベン

paraklesis

感謝祈禱とも訳されるが機密・パニヒダ・埋葬以外の様々な場面、多目的用途の奉神礼。

トロパリ

その祭日のテーマとなる祈り (の歌)。

コンダク

その祭日の説明的な祈り (の歌)。

ポロキメン

プロキメン

輔祭または誦経者と聖歌隊との応唱

0.2.16 十字行

先導蠟燭、大十字架、生神女およびハリストスのイコンを携え、列をなし行進すること。

0.2.17 律法

安息日

スポタ、シャバット

律法により労働が禁止されている曜日。

週の七日目、週の最後の日。創世記 2:1-2, 出エジプト 20:8-11

0.2.18 暦

0.2.19 五旬節

五旬祭期

パスハから五旬祭に到るまでの期間

0.2.20 光明週間

パスハからの一週間

0.2.21 復活祭期

パスハから昇天祭までの期間。

0.2.22 ユリウス暦

旧暦^{*11}

ユリウス・カエサルの際に制定された暦、イイススの時代はこの暦であった。

20～21世紀現在、グレゴリオ暦に対して13日遅れている。

0.2.23 グレゴリオ暦

新暦^{*12}

現在広く用いられている暦。春分の日ずれが少ない。

*11 ユリウス暦は紀元前45年に導入された

*12 グレゴリオ暦はローマ・カトリック教会によって1582年に制定された暦

0.2.24 その他

ワイ、ワエ、ウォ

それぞれ、ヴィ、ヴェ、ヴォ

教会スラブ語を明治期にカタカナ表記されたものが、だいたいこのようになっ
てはいる。しかし、表記の揺れがあるので注意は必要。

けだし
蓋

考えてみると・思うに・以下と推測する・なぜなら～だから・いったい・
そもそも

文章や会話の出だし言葉

0.3 もっと知りたい人のために

参考になる文献を紹介します。

0.3.1 参考文献

ゲオルギイ松島神父によるウェブサイト「来てみてごらん」

<http://www.orthodox-jp.com/george/>

「正教会入門」ティモシー・ウェア著 松島神父監修、新教出版社、2017年
8月1日 第1版第1刷

「聖書のメッセージ」ジョージ・F・クロンク著、司祭ゲオルギイ松島雄一
訳、発行2005年4月 日本ハリストス正教会西日本主教区 教務部

「ギリシャ正教」高橋保行著、講談社学術文庫 1980年

「宗教の世界史 10 キリスト教の歴史 3 東方正教会・東方諸教会 (宗教
の世界史)」廣岡 正久著、山川出版社、2013年7月25日 第1版第1刷発行

「ニコライの日記」(上、中、下)、中村健之介編訳、岩波文庫、2011年

「ニコライ堂の人びと」長縄光男著、現代企画室、2000年

「宣教師ニコライと明治日本」中村健之介著、岩波新書、1996年

「フィロカリア 第一巻」2007年12月10日発行、新世社

カリストス・ウェア主教の論集 I 「私たちはどのように救われるか 大斎の意味 正教徒は聖書をどう読むべきか」カリストス・ウェア主教著、司祭ダヴィド水口優明、司祭ゲオルギイ松島雄一訳、西日本主教区

その他、教会事務所等で頒布されているトラクト類。

「正教入門シリーズ 1 正教要理」

「正教入門シリーズ 2 奉神礼」

「正教入門シリーズ 3 聖書概論 教会史」

「正教会の手引」

「正教会用語集」(2021年5月) その他

「自由と責任 調和を求めて 人間の権利と個人の尊厳」モスクワおよび全ルーシの総主教キリル著、モスクワ総主教庁渉外部監修、アンヴィックス社訳。

およそ自由主義思想^{*13}と伝統的な宗教的価値観との文明の衝突について書かれている。この本はロシア正教会のプロパガンダ的なものですが、プロパガンダすら情報として得難い現状を考えると貴重な書物と言えるでしょう。

各教会で実施されている伝道会で司祭等から直接教えて頂いた話しや先輩信徒からの口伝によるもの多数。出典を書くのは困難。

なお「正教会の手引」は簡易な入門書ではありますが、2023年8月現在、教団のウェブサイトからPDFでのダウンロードができない状況なので直接教会事務所などで頒布してもらう必要があります。簡易な手引書なので内容的に不十分と考えられます。他の書籍等で補う必要があるでしょう。

^{*13} 実際には自由主義と伝統的宗教の衝突ではなく自由主義の看板を掲げているが中身は新マルクス主義つまり社会主義と宗教の衝突であるという説明をする人もいる。(これを教えてくれた人と連絡が取れないので出典がしめせないのは申し訳ないですが)

0.3.2 その他の情報源

教会に足を運んでハリストティアニン達とお友達になりましょう。きっと色々おしえてくれるはずです。

インターネットの活用について

たとえば教会に通いたいと考えて最寄りの教会を調べるとか、キリスト教に興味があって教義や歴史について調べたいとか、そのような要望がある場合、インターネット検索にはコツがいろいろあります。規模の大きな教会のオフィシャルサイトを優先しましょう。たとえばローマ・カトリック教会について知りたいならば「カトリック中央協議会」のサイトをたどるのが良いでしょう。また日本基督教団なら「日本基督教団公式サイト」を参照しましょう。とはいえ、日本基督教団は玉石混合の教団なので、そこに属している教会のウェブサイトがあったとしても内部事情に通じている人でなければ良し悪しの判別は難しいでしょう。オーソドックスならば「日本正教会」のオフィシャルサイトや orthodox-jp.com など、日本ハリストス正教会の神品等によって運営されているサイトを参照すべきでしょう。

基本は口伝

基本は口伝です。オフラインのフェイストゥフェイスの関係から、ハリストスの福音が伝えられてきたことを考えると、文献による宣教には限界があります。やはり教会に通い、司祭等から直接教わるのが一番良いやり方です。

0.4 あとがき

この文書が皆様の信仰生活の役に立つものとなるようお祈り致します。

私は 2008 年、29 歳のときに東京の本会、神田駿河台の地にある東京復活

大聖堂教会、通称ニコライ堂にて受洗しました。それから十数年ばかり信仰生活を送ってまいりました。この文書は今までに読んできた何冊かの本と、伝道会で教わったこと、府主教座下や司祭等のトラクトなどを元に作成しました。

なぜ洗礼を受けたのかと尋ねられることがあります。記憶によれば教会を探し始めたのは2006年の終わり頃です。記憶が確かではありませんが、当時働いていた会社を精神を病んで辞めることになったとき、ある上司が悪意はないのに私を追い詰めるので「これは悪魔の仕業に違いない、悪魔はいるに違いない、悪魔がいるならば神もいるに違いない」とか「これらの不幸は私が成長するのをやめてしまったから守護天使が守ってくれなくなったためだ」などといった考えに至ったのがきっかけでした。^{*14}

落ち着いて考えてみると、守護天使なる語句が頭の中に登場したり、悪魔はいる、悪魔とたたかう方法を知らなければならない、などという発想は、およそ宗教に属することであると気がつき、そして祖母がクリスチャンでしたから子供心にキリスト教に馴染みがあったので、教会を探し始めたのです。

なぜオーソドックスの教会を選んだかといえ、教理的にしっかりしているし、当時の無知な自分には多く枝分かれをしたキリスト教の教派から自分に合ったものを選び取るなんて不可能なことに思われたからです。

というのも最初に導かれた教会が根本主義（聖書原理主義）でしたからびっくりしたのです。進化論を拒否、十分の一献金、洗礼は浸礼式に限る！しかし、実に信仰深く、良い人たちでした。半年ばかり通いましたが、全くあのような信仰こそ見習うべきであるとさえ感じたのです。とはいえ、根本主義的信仰の持ち方には、素人目にも何か違うと感じたので他を調べようと思ひ、色々な教会を巡ることにしたのです。

^{*14} 後で、ある神品にこのことを話すと、それは実に日本的というか、アジア的な信仰の持ち方で、典型的な崇り神信仰だと教えてもらいました。私は洋画好きだったので、キリスト教に関心を持ったのは欧米の文化の影響かと思っていたの意外でした。

しかし、「数打ちゃ当たる」作戦には無理がありました。はたして、「キリスト教ってこんな宗教だっけ？」と疑問が生じました。小学生の頃、プロテスタントのクリスチャンだった祖母の葬式で初めてキリスト教に触れた自身の記憶からは、なにか違うという感想しかありませんでした。

そこで、枝葉ではなくメインラインを追わなければと考えました。そうです、キリスト教のメインラインといえばローマ・カトリック教会に違いありません。そこで、例の如くインターネットを調べ、例の如く Wikipedia の該当ページを読み、ようやく東方正教会なるものが存在することを知ったのでした。しかし、その時は東方で土着し変異したメインラインからは外れた異端的な教会であろうと思い、通り過ぎるところを、唐突に「いや待て、偏見はよくない」という考えが浮かび、よく調べると正教会の方がメインラインであることが分かりました。これは恩寵による導きでしょう。とりあえずローマ・カトリック教会の勉強会に通いつつ、他のプロテスタントの教会をいくつか訪ねつつ、御茶ノ水のニコライ堂に通ってみることにしたのです。

最初、聖堂へどうやって行くのか迷いましたが、丸いドームはかつて勤めた会社の帰り道に聖橋から毎日眺めていたものでした。運命的な出会いを感じました。

初めてニコライ堂の奉神礼に参拝したときの感想は「ちゃんと宗教やっている」というものでした。他の教会ではもはやキリストについて語り合う集まりのようなものであると感じていたため、新鮮な感じがして良かったです。金ピカなイコノスタスとお経のようなしょうけい誦経を聞いて、雰囲気は仏教に似ていると思いましたが、おそらく宗教とは本来このようなものなのでしょう。

私はなかなか信じる決心ができませんでしたが、私が教会に通いはじめたのをきっかけに母がプロテスタントの教会に通い始めたことを知りました。私は母は洗礼には至らないだろうと思っていたので、ふと母が洗礼を受けたなら私も洗礼を受けましょう、それくらい信じるのが難しいですと神に語りかけました。そうしたら母が洗礼を受けると言い出して実際にプロテスタン

トの教会で洗礼を受けてしまいました。

そんなこともあり、1年半ほどニコライ堂に通い、なかなか復活が信じられなかったのですが、ある司祭に相談したところ「信じることができるようにお祈りして洗礼を受けてください」と促され、洗礼を受ける決意を固めました。

それから十数年が経ちました。家族で^{オーソドックス}正^{クリスチャン}教のハリストイアニンは自分だけです。私以外の家族は皆およそ宗教には感心がありません。プロテスタントで洗礼を受けたはずの母も今では教会に通うのをやめて無宗教状態に逆戻りしています。ただ、私が信者であるから、わずかに関心を持ってくれているようで、まれに聖堂に足を運んでくれます。しかし、通ってみたり、ましてや信仰を持つところまではいきません。教会のよさを伝えることができないのは、私が十分に変容し光り輝いていないからです。これはとても残念なことです。

しかし、希望を棄ててはいけないので、最後に、この文書が私自身と家族の救いのために役立つことを切に願い祈ります。



チョトキ (コンボスキイニ)

0.4.1 編集履歴

解説ハリストス教信仰 (V)

リリース版

v1.0 . . . 2023.08.26

v1.1 . . . 2024.02.08

この文書の最新版は下記 URL を参照してください。

<https://orthodox.jp/eks/>

0.4.2 製作・著作

エフレム木村真之介 (E.Kimura.S)

連絡先

X(Twitter): @shin314159

e-mail: shin314@gmail.com